

サケ、マス保護 水面管理事業に伴うサクラマス調査

I 調査目的

人為的保護によりサクラマス資源の増強をはかる一方、サクラマス(ヤマメ)に関する生態を明らかにしてマス漁業の発展に資する。

II 調査内容

- (1) 調査期間 : 44年4月~45年3月
 (2) 調査担当者 : 次長 頼 茂
 課長 長 峰 良 典
 技師 青 山 禎 夫
 " 橋 爪 政 男

(3) 調査地域 : 下北郡東通村白糠老部川

(4) 調査項目

- a サクラマスの溯上および産卵調査
 b 再生産に関する調査
 c 標識放流調査
 d 河川漁場調査

III 調査結果

a サクラマスの溯上および産卵調査

老部川における確認産卵床数は99床であり、約33万粒の産着卵があたと推定される。このほか人工採卵用に捕獲したもの、密漁による被害を加えると130~140尾の親魚溯上があったと思われる。

b 再生産に関する調査

老部川におけるサクラマス再生産率

年	沿岸漁獲量	そ上量	年令別資源量			年級別資源量	再生産率	
			年別資源量	32	43			54
1963	12,270尾	112尾	12,382尾	11,144尾	1,238尾	—尾	13,329尾	119
64	9,326	57	9,383	8,633	750	—	19,211	337
65	23,488	147	23,635	22,453	1,182	—		
66	11,302	190	11,492	11,216	276	—		
67	18,360	149	18,509	16,658	1,851	—		
68	16,109	203	16,312	14,680	1,370	262		
69	28,719	136	28,855	20,025	7,647	1,183		

c 標識放流調査

昭和43年10月に老部川で採卵し相坂養魚場においてふ化飼育して稚魚(ヤマメ)2033尾を標識(脂ビレ切除)放流した。

d 河川漁場調査

例年と較べての特異現象はないが、砂利採取、木材ばつ採による河川の荒廢がみられるようになった。

IV 今後の課題および問題点

地先海面における最大有効漁獲量と老部川への溯上親魚漁限界数の関連を明らかにすることが課題となる。